

山月記 「虎」の象徴と変身の意味

①李徴は虎となつてしまった自分なんかを認めてくれる人はもういないだろうという胸を灼く悲しみを山の頂の巖に上り、空谷に向かつて吼えた。虎になった自分を李徴は卑下している。

その胸の内を李徴は即興で作った漢詩の中で「声を長く引いて、詩を吟ずる」ことはできなく「ただ吼える」だけだと表現している。つまり自分は人間のように感情を殺すことはできず、虎のように叫ぶだけだと言っている。

しかし、図らずもこの行為が周りを圧倒し、李徴が望んでいた「高み」へと上りつめる結果となった。獣も山も木も露も虎の前に沈黙を続けるしか無かったのだ。

こう考えると李徴が人間の時かなわなかった夢が虎になることよってかなったことがわかる。李徴は人間の時は臆病ゆえに自分が辱めを受けるのを恐れ、(A)本当の感情を押し殺していたから、詩人として名を成すことができなかった。袁傖が指摘した「非常に微妙な点」とはそこである。しかし虎になることでそれが解放され他を圧倒することができたのである。

よって「虎」は(B)荒々しい本音の象徴であり、李徴の変身の意味は押し殺され自分の内に募った感情(本音)の暴走である。

②李徴は乏しい才能でありながらもそれを専一に磨くことによつて堂々たる詩家になったものがあることによく気づいたが、今、頭の中でどんなすぐれた詩を作ったところでそれを発表できず、それどころか自分の頭は日ごとに虎に近づいているという胸を灼く悲しみを山の頂の巖に上り、空谷に向かつて吼えた。虎になった自分を李徴は卑下している。その胸の内を李徴は即興で作った漢詩の中で「長嘯」することはできなく「嗥」だけだと表現している。つまり自分は詩を作ることができず、吼え叫ぶだけだと言っている。

しかし、図らずもこの行為が周りを圧倒し、李徴が望んでいた「高み」へと上りつ

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

める結果となった。獣も山も木も露も虎の前に沈黙を続けるしか無かったのだ。こう考えると李徴が人間の時かなわなかった夢が虎になること(本人は虎になることは望んでいないが)によつてかなったことがわかる。李徴は(A)人間の時は才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧から、詩人として名を成すことができなかった。袁傖が指摘した「非常に微妙な点」とはそこである。しかし、虎になることでそれが解放され、他を圧倒することができたのである。

よって「虎」は(B)己をさらけ出すことの象徴であり、李徴の変身の意味は己をさらけ出し、己を磨けというものである。

※【象徴の考え方】(A)と(B)は対照的な表現になる。人間だった時は「虎」が消されていたから詩人として名を成すことができず、「上」にいけなかった。しかし、虎になり、「虎」が解放されることにより「高み」へと上ることができた。

次のような例は矛盾が生じている。

③ (A) 卑怯な危惧と刻苦を厭う怠惰

(B) 李徴の鬼才

↓ (A) と (B) の関係が不明確

④ (A) 内向的で人との交わりを持たなかった

(B) 孤独

↓ (A) 〓 (B) ではだめ……人間だった

時でも「上」になっていたということになつてしまう。

⑤ (A) 臆病な自尊心

(B) 本当は弱い

↓ (B) が「本当の自分の表出」だったら

しつくりまとまった。オシイ。

⑥ (A) 妻子の衣食のため

(B) 自由

↓ (A) と (B) の関係性が無い。「何からの自由」か明記したほうがよかった。

「自由」だけでは曖昧すぎる。